

令和6年8月27日(火)



歯科医院で、さまざまな検査ができることを知っていますか。治療するに当たり、現状を把握することは大変重要です。

皆さんが受ける機会が多いものに、歯周病の検査があります。歯と歯茎の隙間の深さを測り、歯茎の炎症の程度を調べます。これは治療の指針づくりに大いに役立ちます。口腔内の状況に応じた歯磨き方法があり、自分に合った磨き方をすることが症状改善につながるからです。

最近、「口腔機能低下症」が増えています。加齢や障害が要因となる疾患で、発症すると口腔内の感覚、そし

## 検査で現状知り改善を

### 口腔機能低下症



「ハ」「タ」「カ」の発音を5秒間繰り返す運動機能検査の様子

く、嚥下、唾液分泌などの機能が低下し、全身の健康を損なってしまう。全身疾患との関連で50歳くらいから症状が現れる方もいますが、65歳以上になってくると大きな病気の経験がなく

ても、該当する方が増えてくるようです。

判断するためには、口腔機能精密検査を行います。症状に応じ、舌苔の付着程度や口腔内の乾燥状態の測定、「ハ」「タ」「カ」と同じ言葉を5秒間繰り返す運動機能検査、かむ力や舌の力の運動能力などを調べます。口腔機能低下症と診断された場合、その低下してしまった機能を改善するために、トレーニングがとても重要です。症状に合わせた体操は、道具を使わず手軽に始められるものも多くあります。

専門性の高い検査もありますので、どこの歯科医院でもできるわけではありません。しかし現在、少しずつ対応する医院も増えてきているようです。かかりつけ医に相談し、検査を通して自分の現状を把握してみましよう。少しでも改善させることが、健康寿命を延ばすことにつながります。

(鹿児島県歯科医師会情報・対外PR委員 石神慶一郎)